

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 夕霧の家		
所在地 (電話番号)	呉市音戸町畑三丁目20番36号 (電話) 0823-56-1202		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成20年12月24日

## 【情報提供票より】(20年11月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算	14 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,500/日 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	12名
要介護1	7名	要介護2	2名	
要介護3	5名	要介護4	2名	
要介護5	1名	要支援2	1名	
年齢	平均 84歳	最低 65歳	最高 98歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田歯科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、併設の関連施設と共に呉市音戸町で母体の医療機関や関連の他事業所の協力を得ながら、入居者には地域のなかでその人らしく生活されることを支えるケアを目指して取り組んでいる。入居者の方々は、ホームの建物から見える美しい瀬戸内の景観と、施設整備の行き届いたホームの環境のなかで、職員と共に馴染みの関係を作りながら個々の希望に沿って、また、食事や掃除等の出来ることには積極的に参加をしていただき、一人ひとりの1日の生活のリズムをつくりながら穏やかに暮らされている。入居者の方々は併設のサービスと小規模多機能の利用者や職員との交流を通じて顔馴染みの関係づくりや、楽しみごともつくりられている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では特に改善点はなかつたが、これからも評価を重ねていくことでハードルが高くなっていく為、更なる質の向上のために今以上に全職員が問題点や課題を共有しながら、日々のケアに活かしていく取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでおり、取り組むことで気付かなかつたことの発見にもつながり、問題を明らかにして、全員が共有の課題としているが、次回の自己評価までには、もう一度自己評価の目的や各項目の考え方の指針をよく確認して、事実を確認しながら今以上にサービスの質を確保されることが望まれる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の定期的な開催は既に定着し、参加者の理解も深まっており、参会者の意見を新鮮に受け止め、ホームの活性化を図っている。今以上に地域の人達の参加を促進するためには、生活圏をイメージして、例えば人(入居者)が生活を確立していくためには、生活圏の中にスーパーやクリーニング店、警察署や郵便局、銀行などさまざまなものが存在することなどが不可欠であると考えられるので、これらと関係を持ちながら、継続して積極的に参加してもらえよう働きかけることが望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>常日頃から、職員や事業所側から意見等を積極的に聴く努力や場面づくりに努めている。今後も個々の入居者の家族等の立場に立った思いで確認を行いながら、ますますの良い関係作りが期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域内では「夕霧の家」として名前はすっかり定着し、近所の人や行く先々の店の人とは馴染みの関係を作りながら、また、地域活動や人々との関わりも積極的な取り組みが行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を果たすと共にこれらを目指した内容の理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で理念の話し合いの機会をもつなどして、意識づけを行っている。		例えば、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて各ユニット毎の目標を策定して、よりケアの意見の統一を図られることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	天気の良い日には散歩や買い物に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり話しをしている。また、自治会に加入してこれらの行事に参加をしたりしながら、地域住民として認知され始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組みながら、明らかになった課題についてはミーティング等で話し合っ改善に向けて取り組んでいるが、一部の項目の考え方の指針については再確認をされることが必要かと思われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、事業所からの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けながら、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		今後共、引き続き事業所の生活圏の中の見直しを行って、例えばスーパーやクリーニング店、郵便局、銀行、お寺さん、保育所等に積極的に参加してもらえるよう働きかけていくことが、望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、入居者の介護保険の更新や変更届けの手続きの機会を捉えて情報交換等を行っている。また、地域包括支援センターの職員とは運営推進会議などを通じて交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけ、入居者の状況や家族のことについて話し合っている。		家族等にあらゆる場面で情報提供を積極的に行うための方法としては、例えば毎月、家族に送付しているホーム便りの構成の在り方などを検討され、ホームの情報及び入居者の暮らしぶりやエピソード、担当職員の一口コメントを添えるなどした工夫を検討していただきたい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や運営推進会議等を通じて常に問いかけ、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職は少なく、定着率は高く異動も最少限度に抑えているが、異動を行う際には職員に細かく指導を行い、入居者の受けるダメージをなるべく少なくできるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員体制の中で資格取得や資質向上には、積極的に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との交流や見学を通じて、他の事業所の人材の意見や経験を参考にしながらサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学等をお願いしながら、家族と職員が十分なカンファレンスを行い、様子を見ながら、どのような対応が良いのか検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者からはそれぞれの歩んできた人生の話を聞きながら、これらを基本に共に過ごし、また、生活の知恵を学ばせてもらったり、喜びを共有している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者の暮らしの中で、その言動や表情から意向の把握に努めている。日常生活の中でテーブル拭き、食器拭き、洗濯干しなどの家事等を入居者が選択して出来る範囲の役割を担っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	一人ひとりの課題やケアの方法を職員間で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的な見直しや急な変化にそれぞれ対応した計画作成を行っている。また、サービス計画作成担当者及び職員は常日頃から変化が見られない場合でも新鮮な目で状況や意向を判断し確認する取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。これからも、入居者の方々の「望む暮らし」というニーズが発生しますが、さまざまなものを利用しながら、その人の生活を確立していかれることが期待されます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医と連携をとり、受診の支援体制が整っている。協力医との関係も良好である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末に対する対応の方針を定め、入居時に本人や家族及び主治医を交えて話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に誇りやプライバシーを損ねることなく自然体で対応することに努めながら、言葉かけや名前の呼び方は入居者が育った土地の言葉を使うなど入居者に合わせてさりげなく行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが持っているペースや、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けなどは、一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にやっている。また、本人と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの習慣やその日の状態に合わせて、柔軟に入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を事前に家族から聞き取り、家事を分担したり、できることを見つけたり、それぞれの役割が持てるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や、本人の気分や希望に応じて散歩や近隣のスーパーに買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりの外出の傾向やくせをよく把握して、日中は居室や玄関に鍵をかけず見守りを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回火災訓練を行い、職員の意識づけをしている。また、地域の協力体制についても、日頃から自治会でもお願いしたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や体重の変化をチェックし、水分は15時のおやつの際などにも定期的に補給するなどして、細やかに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中の共用空間は、明るくゆとりがあり五感刺激への配慮がなされて居心地のよい暮らしの場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の大切なものや、思い出のあるものが並び、個性のある部屋になっている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 認知症対応型共同生活介護 夕霧の家

評価年月日 20年 11月 1日

記入年月日 20年 11月 2日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 岡田 芳恵

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域との交流を大切にしており、定期的に小学校や保育所、地域のみなさんの訪問を受けている。地域の行事に参加したり、学校行事の見学に行くなどしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員、理念に沿って日々実行している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	グル- プホ- ムのオ- プン時、地域の自治会婦人会、民生委員などを招待し、理解を得られるように努めた。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方から物をいただいたり、ボランティアで楽器の演奏をしていただいたりするなど、立ち寄っていただけるようになっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事や、活動などに積極的に参加するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の奉仕活動や、行事などにも積極的に参加し、お手伝いをしている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	利用者の生活環境の改善に向けて、職員一同日々努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域のみなさんや、ご家族に対して報告を行い積極的に意見を聞き、サービスの向上に努めている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当者と定期的に連絡を取り合い、意見交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、学習会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などあれば参加し、ミーティングなどで報告するようにしている。職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	理解、納得していただけるように説明するなどして、努力している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	管理者や職員が声かけするなどして、表現しやすい環境をつくっている。不満、苦情を受けた場合は、全職員に伝え、運営に反映できるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族がされたときに報告したり、近況報告をお送りしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が訪問されたときにお伺いしたり、言い難いことがあれば、文書で書いていただくようにもしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、ミーティングをしており、聞く機会をつくっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	時間的な状況に応じた勤務体制を作り ローテーションを組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職率が低く、利用者との関わりが持てるようになっている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員が研修などに、積極的に参加できる環境をつくっている。研修後は、研修報告書を作成しミ－ティングなどで報告している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に他の施設の行事などに参加し、ふれあいを持つなど、取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ、直接聞くようにしているが、言い難いことはノ－トに書いてもらうなどしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>必要があれば運営者に報告し、運営者は定期的に施設を訪問するなど、働きやすい職場づくりを心がけている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>必要に応じて、話をお伺いする機会をつくり対処している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必要に応じて、連絡を取り合うなどし、話をお伺いする機会をつくり、受け止めるようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときに、その都度話し合う機会をつくり、対応できるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人や、ご家族と話し合う機会をつくり、ご要望を見極めながら対処している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が常に接しており、人生経験をお伺いしたり、できることをお手伝いしていただいている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に連絡を取り合い、利用者のことを報告し、支えあう関係をつくっている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族が訪問された際に、一緒にお茶をお飲みいただいたり、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事などに、参加していただくなどしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い利用者同士の席を近くにするなど関わりあいを持てるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	同じ系列の施設サ - ビスのご利用をお勧めしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人に関わる資料などを検討しながら、支援を工夫している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	介護計画などを活用させていただき、情報の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの状況の把握に努め、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族が面会されたときに、ご相談や、ご意見をお伺いする機会をつくっている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは、定期的に行っている。ご家族が面会されたときにご覧いただき、ご意見があればお伺いしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	その都度、記録をしており、活かしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設のケアに固執することなく、実情や状況を判断し他のサービスへの変更も柔軟に行っている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の状態に応じて、地域のみなさんと連携を取りながら支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて、関係者のみなさんと連携を取りながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	連絡を取り合い、連携を取っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご本人や、ご家族の希望する医療機関で受診していただいている。医師の回診が、週に2回ある。連携の医療機関の受診も行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	理事長である、林医師の指示、助言をいただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	いつでも相談できるようにしており、支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合は、随時連絡を取り合っている。 医師間の連携もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に、ご本人、ご家族、主治医により終末期における対応を話し合い、明確にしている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ご本人の状態を見極めたうえ、主治医と相談し、主治医とともに、よりよい支援ができるように取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>状態に応じて、ご家族や、担当者に相談しながら対応している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員一同、利用者に対して、敬意を払い接するようにしている。個人記録も、十分に注意して取り扱うように徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は、利用者にご希望を言っていただけるように日常的に取り組んでいる。また、ご本人に決めていただくようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的に、声かけは行っているが、利用者ご本人のペースを大切にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪型、服装、化粧品など、お好みに合わせて支援している。お馴染みの美容院などがあれば、ご家族とともに行っていただいている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も、利用者と同じ食事を食べており、利用者一人ひとりにできる範囲内で、準備や後片付けをしていただいている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族に、好物をご持参していただいたり、外出できる利用者は、買い物に行っていただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりに合わせた対応を心かけている。できるところまでは見守り、できないところは、さりげなくカバーしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に、利用者本人の希望のとおりで入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室で休まれたり、フロアの長椅子で休まれたりと、一人ひとりの特徴を把握して支援している。今まで薬に頼っていた利用者も、一日の運動量を増やすなどし、極力服用せずに眠れるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合わせた対応を心がけている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者個々の力量を判断しながら対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物は、近所の商店を利用しているが、ご希望があれば同行している。車で同行して、離れた地域に買い物に行く場合もある。また、周辺に散歩に行けるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節に応じて、お花見、花火大会、紅葉を観に行くなどできる限りの支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い、年賀状など書いていただくように促すことや、電話の利用がある場合は、必要に応じて介助するなど支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族、知人、友人などいつでも気軽に訪問していただいている。ご希望があれば、一緒に食事をしていただけるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が認識し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の状態を把握し、鍵をかけないように工夫している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、常に確認できる場所に位置し、観察できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物などは、利用者の手の届かない場所に保管している 薬品は、専用の保管場所があり、常に施錠している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒記録などを活用しながら、再発防止に取り組んでいる。職員一同、日頃から細心の注意を払っている。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	理事長、林医師の指示、指導により、職員も都度対応ができるように、日々学習している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路、避難の手順などを確認している。地域のみなさんと交流するなどし、協力を得られるようにしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族が、訪問されたときに話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員一同、細心の注意を払っている。申し送りなどで報告し、情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬品の知識の習得は、看護師を交えてのミーティングなどで行っている。服薬は、医師の指示の通りに行っている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	状態を把握し、運動（散歩など）をしたり、食事に配慮するなどして、対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	うがい薬を使用してのうがいの支援や、毎日の歯磨き、義歯の洗浄などを日常的に行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事のカロリー - 計算、摂取量を記録し、状態を把握し支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日、バイタルチェックをしている。有熱者は、一日三回検温し、医師に報告し、指示を受けている。必要であれば往診を依頼する。また、定期的に医師の回診があり重症感染者は、入院設備のある医療機関に移す。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は、常に消毒をしている。食材は、冷蔵庫に保管し、万全を期している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	白とピンクの建物で、入りやすく、親しみやすい表札もかけている。利用者共に草花を、季節ごとに植え替える工夫を心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明類は、落ち着いた雰囲気が出せるように配慮している。テレビの音量調節は、頻繁に行っている。職員間の会話は、落ち着いたトーンで行うように心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と、自由に団欒できるフロアを設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や、使いやすい物を、利用者や、ご家族に相談しながら、場所づくりをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	全室に空調を完備している。換気も、状況に応じて行っている。(室温は、季節に応じてフロア、全室統一にするなど)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所の手すり、浴室の滑り止め、階段は広く滑り止めをつけるなど、安全で快適に過ごせるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	汚れ、シミなどは、速やかにきれいにするようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダを広く設けており、日光浴や、談話などを楽しんでいただけるようにしている。		